

勤務医部会だより

すいどうみち緑道と東部医療センター



幹事 林祐太郎

(名古屋市立大学医学部附属東部医療センター 病院長)

名古屋市立大学 理事)

私は昭和60年に名古屋市立大学を卒業し、そのまま泌尿器科学教室の一員に加わりました。今のように医学部を卒業してから医師としてのスタートを切るための研修制度は定められていない時代でした。さらに都会であっても、どの病院にもどの医局にも医師は不足していました。泌尿器科は顕著でした。名市大の泌尿器科は常に誰もいないほど医局員の少ない教室でしたので、研修の身でありながらスタッフの扱いを受けて働きました。卒後半年の医学部のクラス会で、舞台の上から「研修中の皆さん、泌尿器科助手の林です」と“上から目線”の挨拶をして響感を買いました。

総合的な医師としての修練というよりは、泌尿器科の医師として最低限の診療技術と経験を身に付けるトレーニングを、医師国家試験合格通知の直後から受け、1年が経過した昭和61年6月に、私は名古屋市立東市民病院に泌尿器科スタッフとして赴任しました。内科系や外科系の医師だけでなく、中央放射線部などのメディカルスタッフの皆さまから、勤務時間内は医療人としての教育を受け、退勤後には社会人としての生き方を育んでいただきました。

令和7年4月に、約35年の月日を経て私の医師人生のスタートとなった名古屋市立東市民病院、現在の名古屋市立大学医学部附属東部医療センターに赴任しました。

当院は、東山線・桜通線「今池駅」、「池下駅」の双方から徒歩約10～12分、名古屋市千種区の閑静な住宅街に位置しており、周辺には学校や公園が多く、比較的穏やかな環境にあります。“千種公園”のユリ園や“NAGOYA CENTRAL GARDEN”歩道の落葉樹も好きなのですが、本稿では“すいどうみち緑道”の桜を紹介したいと思います。



“すいどうみち緑道”は、地下鉄今池駅付近から東山給水塔まで続く、かつての送水管敷を利用した遊歩道です。歴史的背景として、鍋屋上野浄水場から東山給水塔へ水を送るための水道管が地下に埋設され、その上に歩道が整備されているそうです。NHKの人気紀行バラエティー番組の“ブラタモリ”でタモリさんが大好きな“暗渠（あんきょ）”なのではないかと調べてみました。しかし、いわゆる川を埋め立てた“暗渠”とは異なり、“すいどうみち緑道”は、木曽川から水を運ぶための巨大な水道管（導水管）が地中に埋設された水道施設の上部を整備した“遊歩道”なのでした。この“すいどうみち緑道”には、アジサイや椿など、四季折々の花々が咲き誇りますが、3月下旬～4月上旬には桜が満開になります。約1.2kmにわたる桜並木が素晴らしいです。でも雨ですぐに散ってしまうのが残念です。ライトアップされた山崎川の桜は豪華で目を楽しませてくれますが、私は“すいどうみち緑道”の桜に心を惹かれます。“竹内まりや”の2007年発売のアルバム“Denim”に収録されている“人生の扉”は年齢を重ねるすばらしさを歌った50代のアンセムとされていますが、その歌詞“満開の桜や色づく山の紅葉を、この先いつたい何度見ることになるだろう”を口ずさみながら、2026年3月27日に“すいどうみち緑道”を歩くことができました。